

## 2015年12月期 第3四半期業績概況

(期間:2014年12月21日~2015年9月20日)

### 《連結決算概要》

(単位:百万円)

項目	実績	前年同期増減額	前年同期増減額 ※ (決算期変更影響除外)
売上高	114,980	△20,797	△15,695
営業利益	△7,135	△2,393	△2,194
経常利益	△6,519	△1,794	△1,586
四半期純利益	△10,038	△4,877	△4,880

※連結子会社の決算期変更の影響により、シャディ関連連結3社、(株)オリエンタルダイヤモンド及び(株)トレセンテの2014年3Qにつきましては、2013年10月1日から2014年6月30日までの会計期間となっております。なお、該当期間は収益性の高いお歳暮・年末商戦を含みますので、同期間比較として決算期変更の影響を除外した2014年3Q実績(決算期変更影響除外)を記載させていただいております。

### ➤ (株)ニッセンの事業構造改革は、ほぼ計画通りに推移

(株)ニッセン 四半期利益前年差 (単位:百万円)

- ✓ 3Q 会計期間(7月-9月)前年差比較では、営業利益、経常利益ともに前年から良化(営業利益1億円、経常利益3億円の改善)

1月-3月及び4月-6月の前年差比較では、カタログ多頻度発行の影響等により利益悪化傾向が続いていたが、販売固定費・その他固定費等の損益構造改善により、7月-9月では前年差比較でようやく良化。

- ✓ 通販商品在庫処分の加速

14年初秋以降に通販商品在庫が急増したが、15年は過去分の在庫処分を優先し、在庫水準の適正化を積極的に推進。

<ニッセン通販在庫推移>

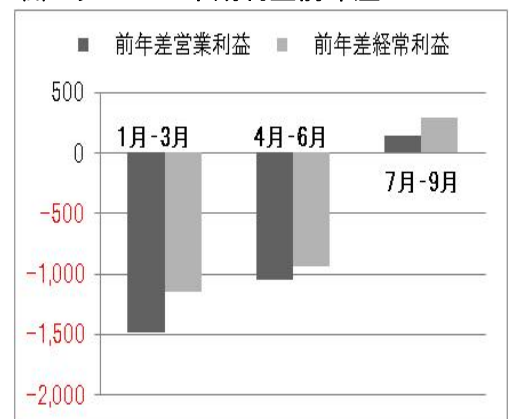
14年3Q:181億円 ⇒ 15年3Q:117億円(前年同期比65.0%)

- ✓ 販売固定費の最適化

14年初秋以降のカタログ多頻度発行政策により、費用効率が大幅悪化していたが、カタログ発行最適化、スマホシフトの加速等により販売固定費の売上比率は徐々に改善(14年3Q:23.3%⇒15年3Q:21.4%)

<カタログ発行部数> 14年3Q:1億9千万部 ⇒ 15年3Q:1億1千万部(前年同期比57.4%)

<スマートフォン経由売上比率> 14年3Q:27.9% ⇒ 15年3Q:32.2%(前年差+4.3%)



### 《来期連結経常黒字化に向けた①経営合理化策および②経営構造改革》

① ニッセン経営合理化策 (特別損失:約57億円) ⇒ 2016年度:約20億円の経常利益改善効果		② ニッセン経営構造改革 ⇒ 通販事業の抜本的な改革・事業再生	
《特別損失内訳》		✓ MD改革(価格訴求から価値訴求)	
ニッセンブランド大型家具事業の撤退	39億円	✓ 調達改革(機会ロス・デッドロスの削減)	
海外事務所/海外検品所の整理等	10億円	✓ 売場改革(スマホシフト、カタログ訴求)	
希望退職の募集	8億円	✓ シナジー創出(セブン-イレブン受取り)	

詳細につきましては、《2015年12月期 第3四半期 決算補足資料》をご覧ください。

IRに関するお問い合わせは、下記までお問い合わせください。

株式会社ニッセンホールディングス 広報IR部

TEL:075-682-2041